



実施者

＜教員＞千葉工業大学 社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科 関研一 教授

＜参加者＞千葉工業大学 社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科 関研究室 4年 小川 開史

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 市民生活部市民課, 商工観光部観光プロモーション課, 総務部企画財政課 (移住定住担当)

1. 背景・目的

国内では、近年地方における若者の人口が減少傾向にあり、その要因の一つとして就職時の学生の大都市志向が関係していると思われる。一方、企業サイドでは、コロナ禍も影響し、サテライトオフィスの設置等、中央集中の分散化への動きもみられる。昨年度の本テーマでは、学生のUターン就職に着目し、首都圏の学生と企業のUターン就職に関する意識調査を実施した。

本年度は、行政における定住促進施策のステークホルダーとして、前年度の対象に加え、実際にUターン就職を経験された方、また、将来の関係人口、定住人口に繋がる可能性もある交流人口へも視野を拡大したテーマ設定とした。調査の結果について、昨年度の結果とも比較しながら総合的に考察する。

2. 実施期間・内容

2021年8月より、6ヶ月間に渡って、南房総市や香取市にてヒアリング、及び、アンケート調査を行い、その結果を分析した。主な調査項目、分析内容は以下の通りである。

①南房総市役所の職員の皆様にUターン後の生活に関してアンケートを実施【51名】。市役所の関係各位にご協力を頂き、全職員の10%以上に相当するご意見を頂くことができました。Uターンに対する総合的な満足度に加え、現在、地元での生活でポジティブに感じている点、また、現状の課題については、自由記述でコメントも頂き、これら文字情報のテキストマイニングより、Uターン後の生活に関する意識を可視化した。

②南房総市、及び、実施メンバーの出身地である香取市の観光地に着目し、自然的資産、文化的資産、産業的資産の3カテゴリーについて6か所の調査エリアを選定した。各施設のご協力を得て個別リアリングを実施した【計226名】。調査の視点としては、市外からの訪問者が観光地に抱く印象、及び、観光地を定住地と想定した場合の課題認識に関するヒアリング調査とした。南房総市、香取市とも、現地調査時には、駐車場の車両ナンバーによる観光客の居住地域の概略推定も行った【計561台】。

2021年度、及び、2022年度の活動を通して着目した定住促進施策のステークホルダーを図1に、2021年度の調査結果の一部を図2、3に示す。

- 今年度の調査から得られた知見として：
- ・Uターンに興味がある学生が将来の地元での生活に対して希望していた上位3つの項目については、Uターン後の生活に関するアンケートにて、ほぼ希望が叶えられている結果となった。特に、親との関係性においては、総合的な満足度に大きく寄与していることが確認できた(図4)。
 - ・Uターン経験者の地元での生活についてのコメントをテキストマイニングした結果からも、親族との関係、通勤環境、安定した職場、自然豊かな生活環境が、ポジティブな要因となっていることが分かる(図5)。一方、高齢化や過疎化とともに、子育て環境や次世代の就職の機会に対して、課題を感じているとの結果が得られた(図6)。
 - ・県内ではともに知名度が高い、南房総エリアと、水郷佐原の二か所について現地調査した結果からは、観光客が主に首都圏から集まっている点では両者に大きな差はなく、南房総エリアでは、自然的資産、文化的資産、産業的資産の3カテゴリーとも、観光客からは、恵まれた自然環境に対するポジティブな意見が多かった点が特徴であった(図7, 8, 9)
 - ・観光地の中では、特に、歴史的資産・史跡のカテゴリーに対応する、高家神社、香取神宮は、他の観光地と比較して、当該施設の歴史等の情報を事前に入手し、訪問の目的が明確な顧客が多いとの印象をインタビューから受けた。高家神社は、ユニークな設立経緯も持たれており、広報によって観光地として更なる集客の可能性を感じた。
 - ・週末に一時的に現地を訪れていた交流市民の視点から、将来的な定住を仮定した際の想定課題を訪ねたインタビューからは、両エリアとも職場の問題を挙げており、南房総エリアにおいては、公共交通機関に対するコメントが一番多い結果となった(図10, 11)

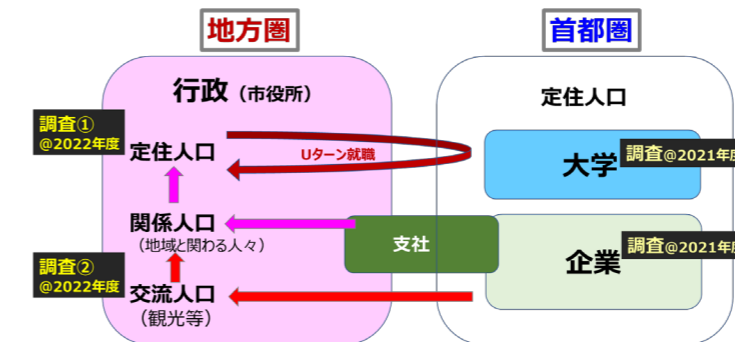


図1 定住促進施策とステークホルダー

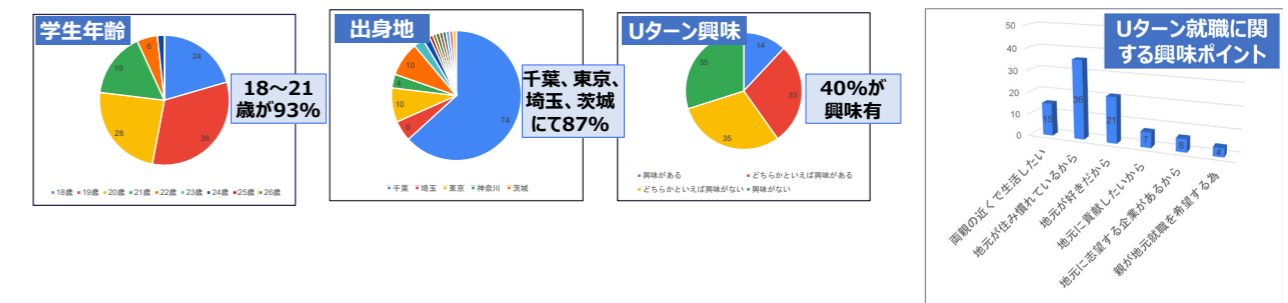


図2 学生のUターン就職に関する認識

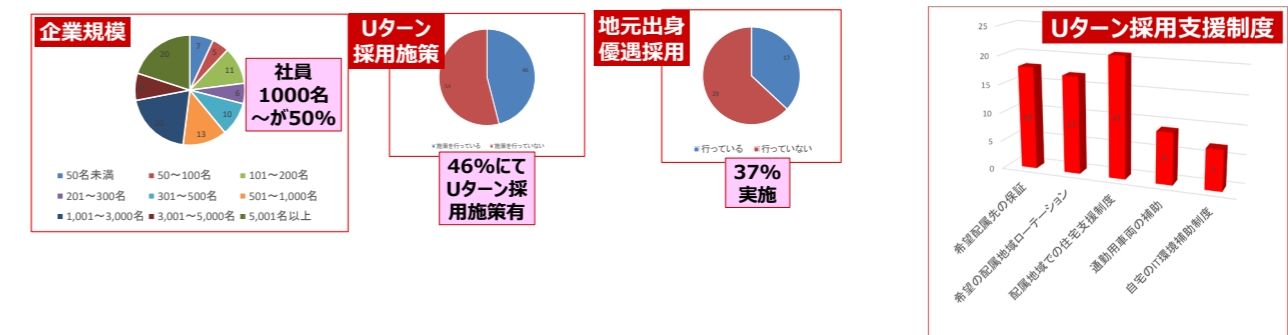


図3 企業のUターン採用支援企業のUターン採用にまつわる状況

域学協働の工夫!

★首都圏の大学における学生からのデータと、首都圏に本社があり地方エリアに事業所を有する企業の人事部門からのデータの同時取得、さらに、定住促進施策のステークホルダーとして、交流人口としての観光客、Uターン就職を経験された定住市民の方を加え、網羅的なアンケート、ヒアリングを実施したこと。本年度は、それらの関係性を可視化するテーマ設定とした点。

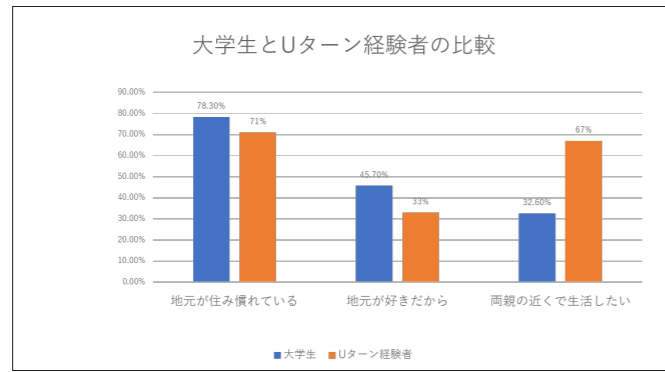


図4 大学生のUターンに関する興味と、Uターン経験者の現状の比較

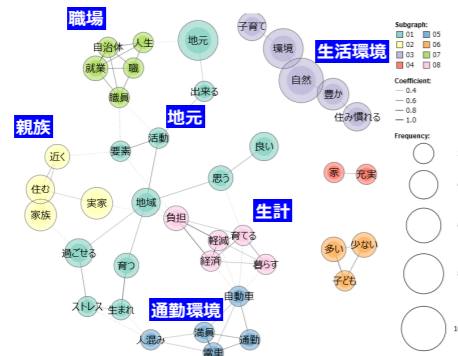


図5 Uターンによって獲得できたポジティブ項目

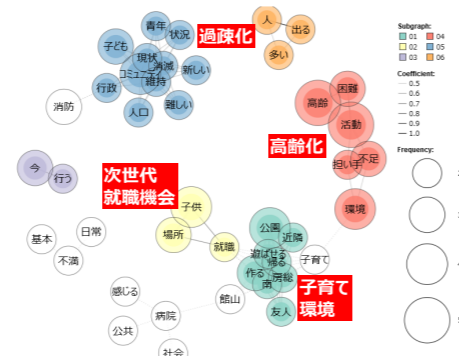


図6 Uターンを経て認識する現状の課題項目

香取市		南房総市
1 水郷、佐原町並み (58名)	自然的資源、住居地域 文化的資源、史跡 産業的資源、観光地	1 野島咲灯台 (37名)
2 香取神宮 (45名)		2 高家神社 (12名)
3 佐原道の駅 (40名)		3 道の駅 潮風王国 (44名)

図7 観光地の調査地点 (南房総市、香取市)

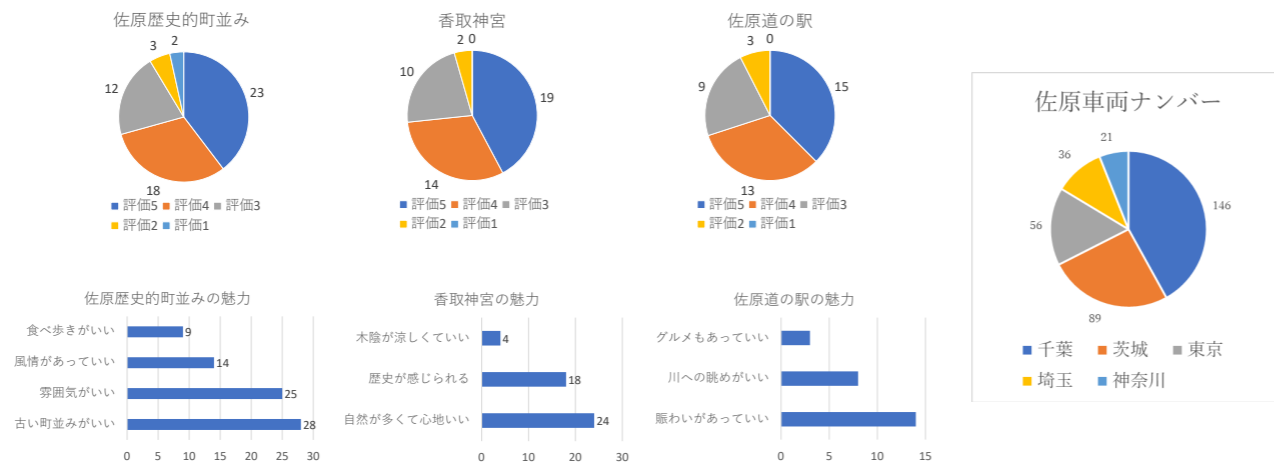


図8 佐原市観光地の魅力

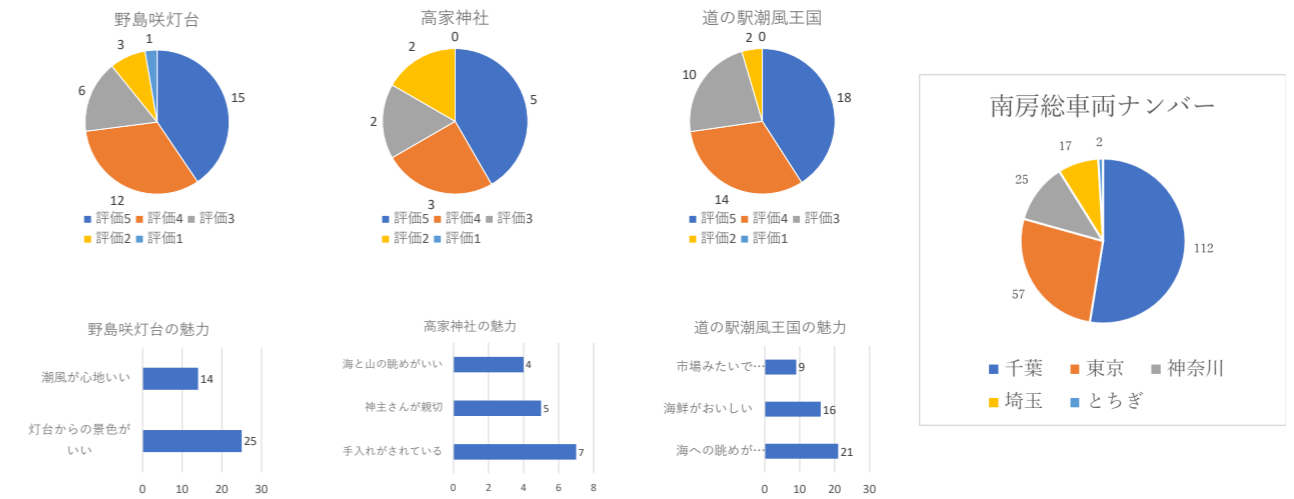


図9 南房総市観光地の魅力

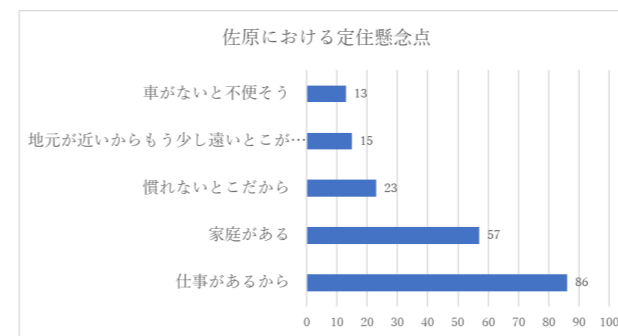


図10 佐原市への定住における懸念点

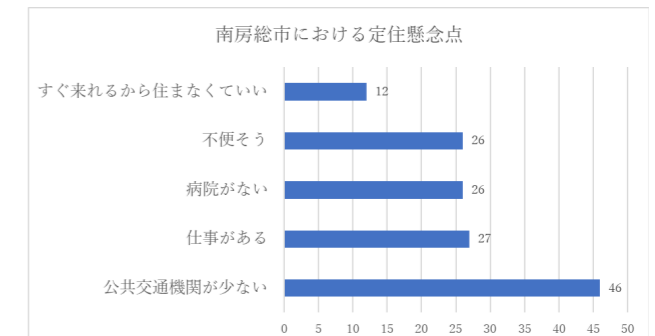


図11 南房総市への定住における懸念点

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

- ・大学生 120 名、採用活動を推進している企業 100 社の人事担当者、6 か所の観光スポットでの顧客 226 名への個別アンケート、及び、Uターン経験者 51 名へのアンケートを通して、定住促進施策に関するステークホルダー各位の意識について、定量的、定性的にデータを収集した。
- ・Uターンに対する大学生の期待と、Uターン経験者の満足度との関係、また、課題認識を整理した。観光客の声については、県内の他の観光地での調査との比較も行い、南房総市としての特徴を抽出し、今後の施策の参考情報になれば幸いです。

(2) 教育・研究面

- ・実施メンバー自身が関係人口として関わらせて頂いている中で、

定住促進施策のステークホルダーについて俯瞰的に整理する機会を頂き、感謝しています。それぞれの立場の皆様へのインタビューやアンケートを実施し、その関係性を卒業研究としてまとめることができ、Uターン就職後の活動としても活かして行きたいと考えている。

4. 今後の展開

研究室の別途研究テーマの成果として、里山における生態系とサウンドスケープ(音風景)に関するジャーナル論文(※1)が採択され、本年度は、新聞各紙やWeb記事(※2)で多く取り上げられた。南房総市内においても、今後、海辺の波音や、森の静けさ等、サウンドスケープを観光資産としてアピールされる際には、次期テーマとしてご協力させて頂ければと考えている。

*表彰・マスコミ掲載など

※1 Effects of hearing diverse orthoptera sounds on human psychology, Urban Forestry & Urban Greening, Elsevier (2022.02)

※2 秋の虫の鳴き声が「リラックス効果」をもたらすって本当!?, ウェザーニュース <https://weathernews.jp/s/topics/202209/160215/> (2022.09)